

# レプトスピラ症に気をつけよう

沖縄県衛生環境研究所

Q 1. レプトスピラ症<sup>しやう</sup>ってなあに？

A. レプトスピラ症<sup>しやう</sup>は、病原性<sup>びやうげんせい</sup>レプトスピラという細菌<sup>さいきん</sup>（図1）の感染<sup>かんせん</sup>によって引き起<sup>ひ</sup>こされる人畜<sup>じんちく</sup>共通<sup>きゆうつう</sup>の感染症<sup>かんせんしやう</sup>です。

Q 2. レプトスピラ菌<sup>きん</sup>はどこにいるの？

A. 感染<sup>かんせん</sup>した動物<sup>どうぶつ</sup>の体内<sup>たいない</sup>（腎臓<sup>じんぞう</sup>）に潜<sup>ひそ</sup>んでおり、尿<sup>によう</sup>中にレプトスピラを排菌<sup>はいきん</sup>して、土壌<sup>どじやう</sup>や川<sup>かわ</sup>を汚染<sup>おせん</sup>します。

特にネズミ<sup>とく</sup>は感染<sup>かんせん</sup>すると1年以上<sup>ねんいじやう</sup>も保菌<sup>ほきん</sup>動物<sup>どうぶつ</sup>となり環境<sup>かんきやう</sup>を汚染<sup>おせん</sup>します。レプトスピラは土壌<sup>どじやう</sup>、水<sup>すい</sup>中で数週間<sup>すうしゆうかん</sup>生存<sup>せいぞん</sup>が可能です。

Q 3. どうやって人<sup>ひと</sup>や動物<sup>どうぶつ</sup>に感染<sup>かんせん</sup>するの？

A. 人<sup>ひと</sup>への感染<sup>かんせん</sup>はレプトスピラに感染<sup>かんせん</sup>した動物<sup>どうぶつ</sup>の尿<sup>によう</sup>に汚染<sup>おせん</sup>された土壌<sup>どじやう</sup>や水<sup>みず</sup>との接触<sup>せつしょく</sup>により皮膚<sup>ひふ</sup>の傷<sup>きず</sup>、鼻<sup>はな</sup>や目<sup>め</sup>の粘膜<sup>ねんまく</sup>を通過<sup>つうか</sup>して体内<sup>たいない</sup>に侵入<sup>しんにゆう</sup>します。

Q 4. 保菌動物<sup>ほきんどうぶつ</sup>となる動物<sup>どうぶつ</sup>の種類<sup>しゆるい</sup>は？

A. 多く<sup>おほく</sup>の野生動物<sup>やせいどうぶつ</sup>や家畜<sup>かちく</sup>、愛玩動物<sup>あいがんどうぶつ</sup>は感染<sup>かんせん</sup>すると保菌動物<sup>ほきんどうぶつ</sup>となる場合<sup>ばあい</sup>があります。沖縄県<sup>おきなわけん</sup>ではネズミ、ブタ、イヌ、ネコ、マンガースからレプトスピラ菌<sup>レプトスピラ菌</sup>が検出<sup>けんしゆつ</sup>されています。

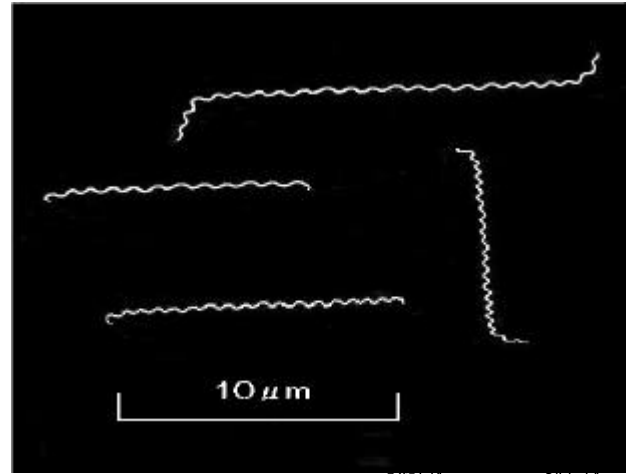
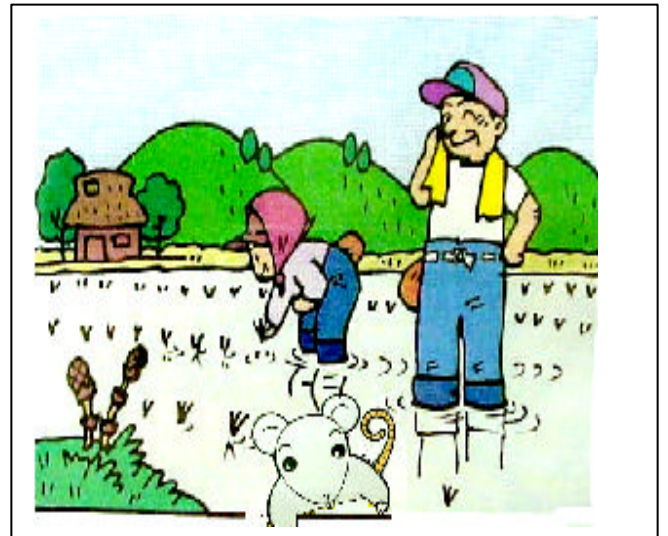


図1 病原性レプトスピラ（1 μm = 0.001mm）

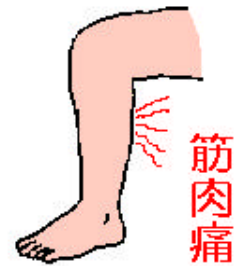


Q 5. 発症<sup>はつしやう</sup>した人<sup>ひと</sup>から健康<sup>けんこう</sup>な人<sup>ひと</sup>へうつることはありますか？

A. 人<sup>ひと</sup>から人<sup>ひと</sup>への感染<sup>かんせん</sup>はほとんどありません。

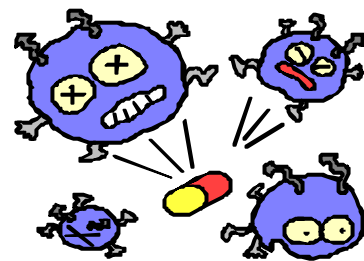
Q 6. 感染するとどんな症状がでるの？

A. 感染から3～14日間の潜伏期のあと突然の頭痛、発熱(38以上)筋肉痛、眼結膜の充血が主な症状です。重症になると黄疸、腎障害等の症状がでて、治療しないと致死的な経過をとることもあります。



Q 7. 有効な治療薬はありますか？

A ペニシリン、ストレプトマイシン等の抗生物質が有効とされています。



# レプトスピラ症の感染サイクル

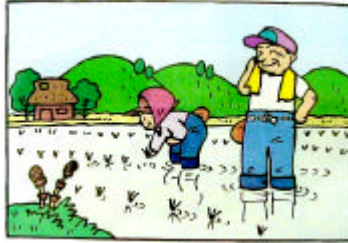
野生動物

げっ歯類、マングースなど



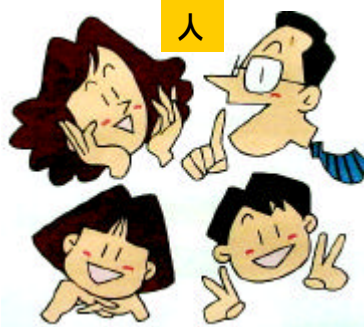
環境

水田、川、池、沼地



経皮感染

人



ペット

犬、猫など



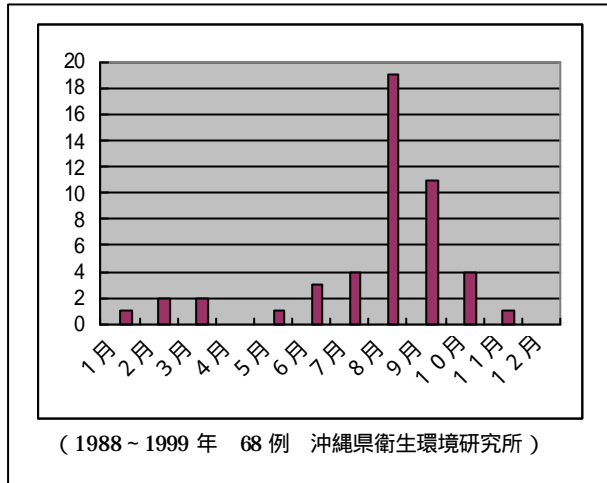
家畜

豚、牛、山羊など

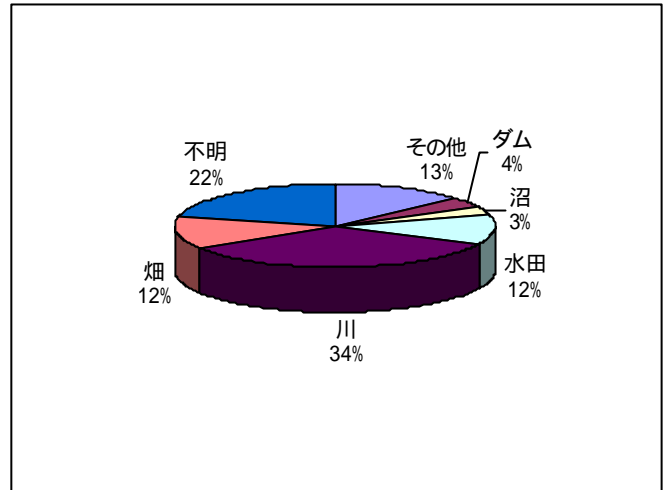


# 沖縄県における状況（1988～1999年）

## 感染の多い月

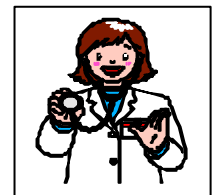
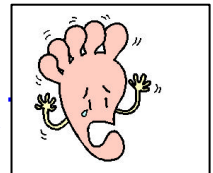


## 感染の多い場所



## 予防のポイント

1. 皮膚に傷がある場合は、水田や川に入らないこと
2. 素足で長時間水田や川に入らないこと  
皮膚がふやけてくると感染することがあります。
3. 特に7月～10月の間は気をつけること
4. 水田や川に入った後、突然の発熱、頭痛、  
筋肉痛の症状がでたら、すぐにお医者さんに診てもらうこと。



### 問い合わせ先

おきなわけん えいせい かんきょう けんきゅうしょ びせいぶつしつ  
 沖縄県衛生環境研究所 微生物室

でんわ  
 電話 098 - 945 - 0785

FAX 098 - 945 - 9366